

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山字4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成24年1月16日	評価結果市町村受理日	平成24年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati/onPublic.do?JCD=2192200018&SCD=320&PCD=21□□
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成24年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所して頂いています御利用者皆様が、ゆったりとした気持ちで、その人らしく生活して頂けるよう環境づくりに努めています。また一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーの配慮や、認知症の進行を少しでも遅らせることができるよう、レクリエーションや外出支援を多く取り入れ、その瞬間でも“楽しい”と感じて頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を常に意識する為、事務所やロッカーに掲示し会議等で話し合っている。職員は利用者と接する時は、声の調子を落としゆったりと接し、落ち着いた毎日が過ごせるように理念を実践している。利用者への支援が一律のものにならないように、希望による行事の際の飲酒や、美容院の送迎、葬儀への参列や法要出席等を実現している。食事の自立に努め、補助具のスプーン、軽い食器を用意し、介護が必要になっても自分で食べる楽しみを支援している。利用者の生活歴や性格、現状等を把握してサービス内容を随時変更する、柔軟な介護がなされている。管理者代表者は、職員研修に力を要れ、内外の研修参加をすすめ、職員は受講後それを持ち帰り会議で発表する等、全員で周知する機会をもっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく生活して頂けるようなサービス提供をホーム独自の理念とし、月に1度の会議で唱和する事で、職員間で共有し合い実践に繋げている。	理念をロッカー、事業所内の目に付く場所に掲示し、会議で議題にして共有している。毎日の介護の中でゆとりを持って接し、個別対応を心がけ、馴染みの関係の中で、本人が生活できる事を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのお店へ買い物に出かける事で、地域とのつながりを作っている。また地域の保育園と交流し、七夕やクリスマスなどの行事時は、来苑して頂き交流が出来るような機会をつくっている。	利用者が買い物に行った時、店員との会話場面を設定したり、保育園児の訪問、地域行事の案内をもらっている。しかし、地域の一員としての役割を担ったり、事業所の特性を活かした交流までには至っていない。	自治会や老人会で認知症ケアの話をする等して、地域の一員としての役割を担ってほしい。地域の協力を得て利用者の生活支援をより強めてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申込み時や電話での問い合わせ時には、相手の方々の大変な状況を共感しつつ支援の方法やアドバイスを含めた情報提供ができるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度より、4施設合同で運営推進会議を開き、事業所ごとで、状況報告、より多くの現状を理解し合せている。	同一法人の4事業所合同で会議を開催している。情報の交換を行い、職員で検討し、ケアに活かしている。しかし、個別の事業所毎の会議記録がなく、運営に反映されているか分かりにくい。	外部評価結果や、地域性は、事業所毎に違っていると思われる。運営推進会議を個別の事業所毎に記録し、そこでの意見をサービス向上に活かしてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時や、利用者様の認定調査などで、高齢福祉課の方々に来て頂いた時などに、事業所のサービス状況について話しをたり、ニーズを伝えアドバイスを頂くといった連携を図っている。	市町村へ利用料金の支払いについての相談や、介護保険制度への質問等をしている。また、市町村からは、認知症高齢者の受入れ状況の相談等や、地域の高齢化についての話し合いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待に関する勉強会を月1回の会議を通じて理解徹底に努めている。	身体拘束や、虐待の講習を受け、それを職員全員で研修して周知している。転倒の心配のある人にはマットをベッド横に置き、夜間の見守りを多くしている。玄関は昼間施錠せず、外出希望の人は職員と一緒に外出し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員で外部研修へ行き、そこで学んだ内容を基に月1回の会議で勉強会を実施することで、正しい知識を理解し合い、日々のケアの見直し、防止徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について、外部研修に参加すると共に、事業所会議にて勉強会を開き、知識を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアや取組み退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、その都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者アンケートの実施や玄関に意見箱を設置する事で、苦情、不満等はすぐ相談して頂けるよう努めている。又、来苑時は、生活状況をお伝えしながら談話もふまえ、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。	家族訪問時に、利用者の日常を細かく伝え、話やすい環境作りに心がけている。また、家族にアンケートをとり結果を会議で検討し、外出回数の増加等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、職員から出た意見または相談は、内容によってトップマネジメント会議などで相談をし、早く返答そして実行できるように努めている。	職員が事務所を訪れ、管理者に個別に意見や要望を伝える等、言いやすい関係を築いている。勤務日数や休みの希望、トイレ手すりの設置や電気製品の修理等、意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議において、就業規則及びキャリアパスの改正点を説明し、職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や施設内勉強会においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を開く時は、関連の同業者へも連絡を行い、又、他施設で行われる場合は、連絡を頂き、学習を一緒に行う事で、個々に抱えている問題や情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず本人と事前面談を行い、心身の状態や家族関係、生活暦を把握し、安心して入所して頂けるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を理解し、当ホームにおける対応システム等を説明し、どのような対応ができるかを話し合うことで安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、必要なサービスについては、検討していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを職員間で認識し、利用者の話に耳を傾け、時には相談にのって頂いたり、共に支え合いお互い和やかな生活が送れるよう場面づくりや声かけに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、家族と同じような思いで支援をしていけるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方に住んでいる家族や、古くからの友人・知人には、電話をかけたり、手紙を送り連絡を取っている。又家族の協力をもとにかかりつけの病院へ受診に出かけたり、行き慣れたお店へ買い物にでかけられるよう支援している	家族からの情報や、本人からの話を聞き、馴染みのお店等の利用に努めている。習字を練習して年賀状を出したり、施設入居している友人との、電話による交流支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごせるようレクリエーションの時間を設け、利用者同士の関係が、上手いくよう、職員が調整役となり、一人ひとりが孤立しないような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設でのサービスが終了となった方や他施設へ移られた方にも、利用者と一緒に遊びに行ったり、当施設での行事に参加して頂けるよう心がけている。又、これまでの支援内容を情報提供し、連携に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で信頼関係を築き、本人の意向やできるだけ希望に添えるよう努めている。又、困難な方の場合、ご家族と共に相談を行いケアに活かせるよう努めている。	思いや希望は、ゆっくり落ち着ける時間や夜勤帯に、利用者とは気が合う職員が、個別に尋ねている。訴えの少ない人や困難な人には、そばについて見守り、表情等小さな変化を見逃さず、思いを察知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人の協力にて、アセスメントシートを作成し、これまでの暮らしを全員が把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの発言や行動、身体状況など、毎日の様子を個別に記録し、申し送りをすることで職員全員が把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや意見を聞き、カンファレンス時、職員間で意見交換・モニタリングを行い、現状にあった介護計画を作成している。	本人、家族等から意見を聞き、職員間で話し合いをし、定期的に評価を行っている。退院直後の食事全介助から、会議での職員意見により、自立に向けてスプーンの大きさを変え、一部介助への計画変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況、実践したケアサービスなどを個別記録に記入し、勤務交代時には、申し送りを行い職員間で情報の共有、把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院・外出支援の送迎など柔軟な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に、自治会や民生委員、市役所の方に参加して頂くことで、地域の周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続的な医療が受けられるように、また状況に応じて本人や家族が希望する医療機関にて、診察が受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望で、かかりつけ医を受診している。受診時は、家族に事業所での様子を伝え、受診後は情報を聞き状態を把握している。通常は家族受診であるが、都合や状況、急変時等は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、一人ひとりの表情の変化に気を配り 早期発見に努めている。変化に気づいた時は、直ちに看護師に報告し、看護師が不在時でも職員と看護師は連携を取る事で 適切な医療に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入所サマリーを作成し利用者の情報提供を行い、看護師や職員で見舞・声かけを行うようにしている。又家族や主治医と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、安心して納得した最後が迎えられるよう、随時意志確認をしながら取り組んでいる。	早期から方針を説明し、状態変化時毎に話し合い、確認している。24時間の医療連携体制のもと、家族も寝泊りして看取りをし、他の利用者も、一緒にお別れに参加している。職員は見取りケア研修、AED等緊急時対応の研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、急変時には、迅速な対応が出来るよう、救急法や蘇生術の勉強会を行い、救急隊が到着する前に職員全員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を行い、災害時の避難経路の確認や消化器の使い方などの訓練を行っている。又災害時には、自治会の協力が得られるよう会議時に、自治会長や民生委員の方に声かけを行っている。	各部屋の入口に車いす避難者の印をつけ、救助時の目安とし、利用者の煙体験等や、夜間想定訓練、災害に備えた備蓄をしている。地域の人へ声かけをし、協力を得て避難訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、常に言動や対応に注意し、情報収集や外部との連携の際には、個人情報・プライバシーの保護について意識し取り扱いには注意をしている。又、自尊心を傷つけないようにその方々にあった声かけをするように心掛けている。	職員は生活歴を知り、一人ひとりに合わせた言葉かけをしている。廊下から中が見えないように、居室扉の透明ガラスに紙を貼っている。ポータブルトイレに布を掛け、希望による入浴排泄時の同性介助を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が思いを表出しやすく、又自己決定できるような雰囲気、場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分に合ったペースでその人らしくすごせるよう利用者の意向を最優先している。又、不都合が生じた時は、本人と話し合っ決めてよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度美容師の訪問があり、利用者は好みのヘアスタイルを相談して決めている。又、希望時には、近くの美容院へ送迎し、毛染めをするなど、本人のこだわりを大切にして、その人らしさを保てるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の献立を相談したり、手伝いや後片付け等、一緒に取り組んでいる。又食材や調理方法は、本人の好みに合うよう工夫し、食事時は一緒に食事を取りながら楽しい時間を共有している。	職員は、利用者の力にあわせて後片付けの場面をつくり、一緒に食事をして楽しい話題を提供している。自分で食事が出来るように、補助具のスプーンや持ち上げやすい軽量のプラスチック製皿に変更している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量が把握できるよう記録し、健康状態に注意している。又、定期的に献立を栄養士の方に見て頂き、栄養管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声かけを行い、洗面所にて、できる力に応じて見守りや一部介助を行い口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、状況を把握し、尿意がない方でも、こちらから声かけをすることで、本人の排泄習慣が守られるよう支援している。またADLに応じて、日中は布パンツ、トイレでの排泄など自立にむけた支援を行っている。	声かけしてトイレ誘導したり、本人の思いを大切に布パンツで過ごせるように、タイミングを見てパット交換している。夜間もポータブルトイレ等を使用し、できる限りおむつを使用しない工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、十分な水分補給や食材の工夫、自然排便に向けての腹部マッサージや体操など個々に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を把握し、本人の希望に合わせて入浴ができるよう支援している。又、一般浴槽に入ることが難しい方は、特殊浴にて入浴を行っている。	リフト・機械浴があり、身体状況に合わせて入浴ができる。入浴日や1番風呂、ぬるめの湯、ゆず湯等利用者の希望をかなえている。好まない人には、声かけの工夫をし雰囲気を変えて、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、生活リズムを壊さないよう利用者に合わせ、日中でも休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、薬の用法・効能・注意点等をいつでも見れるようファイル作成してある。又、服用時には、名前・日付を確認し、側にいて飲み込み確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活リズムを尊重し、家事などできそうな方には行って頂く事で、その方の力を引き出し、活かしていけるよう支援している。又、外食やレクリエーションなどを行い気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節のイベントへの参加など、事前に計画を立て、家族や職員間で連携を図り、一緒に楽しく外出できる機会を作っている。	天気の良い日は近所を散歩している。買い物や外食に出かけたり、花見などの季節ごとの行事を計画する等、出かける機会を多く作っている。身内の葬式、法要に家族の協力を得て職員が付き添った事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談し、能力に応じて自己管理の援助を行っている 必要な物品などは、職員と一緒に買い物にでかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に電話ができるように対応している。又、家族の方からいつでも電話をして頂けるような雰囲気づくりに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなどは、花や手作り作品を飾り、季節感が味わえるよう取り組んでいる又、室内の温度など空調管理に配慮し、利用者一人ひとりが快適に居心地よく過ごせる環境整備に努めている。	掘りごたつや、廊下のソファで談笑している。冷気遮断の為、廊下に大きなカーテンをつけ、加湿器を置いて乾燥に気をつけている。職員は、利用者が見て喜べるように、作った作品を居間に飾っている。写真を見て、思い出話を楽しく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングなど、日当たりの良い所にソファや椅子を設置し、いつでも座って談話や景色が眺められるよう空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら、馴染みの家具や写真などを置き、その人らしくゆったりとした気持ちで過ごして頂けるよう心掛けている。	使い慣れた椅子や家族との写真・テレビ・位牌・愛猫の写真等が置いてある。和室を好む人には畳を敷き、部屋の入口にお気に入りのれんを飾る等、個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身状況に合わせて、手すり等の設置場所を工夫したり、センサーマットを活用することで、自立した生活が送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山字4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成24年1月16日	評価結果市町村受理日	平成24年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati.onPublic.do?JCD=2192200018&SCD=320&PCD=21□□
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく生活して頂けるようなサービス提供をホーム独自の理念とし、月に1度の会議で唱和する事で、職員間で共有し合い実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのお店へ買い物に出かける事で、地域とのつながりを作っている。また地域の保育園と交流し、七夕やクリスマスなどの行事時は、来苑して頂き交流が出来るような機会をつくっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申込み時や電話での問い合わせ時には、相手の方々の大変な状況を共感しつつ支援の方法やアドバイスを含めた情報提供ができるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度より、4施設合同で運営推進会議を開き、事業所ごとに、状況報告、より多くの現状を理解し合せてる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時や、利用者様の認定調査などで、高齢福祉課の方々に来て頂いた時などに、事業所のサービス状況について話しをたり、ニーズを伝えアドバイスを頂くといった連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待に関する勉強会を月1回の会議を通じて理解徹底に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員で外部研修へ行き、そこで学んだ内容を基に月1回の会議で勉強会を実施することで、正しい知識を理解し合い、日々のケアの見直し、防止徹底に努めている。		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について、外部研修に参加すると共に、事業所会議にて勉強会を開き、知識を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアや取組み退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、その都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者アンケートの実施や玄関に意見箱を設置する事で、苦情、不満等はすぐ相談して頂けるよう努めている。又、来苑時は、生活状況をお伝えしながら談話もふまえ、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、職員から出た意見または相談は、内容によってトップマネジメント会議などで相談をし、早く返答そして実行できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議において、就業規則及びキャリアパスの改正点を説明し、職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や施設内勉強会においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を開く時は、関連の同業者へも連絡を行い、又、他施設で行われる場合は、連絡を頂き、学習を一緒に行う事で、個々に抱えている問題や情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面談するが、思いや不安、要望など気持ちを引き出せるよう尊敬の念を持って接している。対話の中から、今後安心して入所生活を送れるように、その人を知り、良好な関係が作れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経緯をお聞きし、家族の不安や要望、思いを共感を持って受け止めている。入所後も本人を共に支えるパートナーとして信頼関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思い、要望をお聞きし、また状況を見ながら必要とされる支援を判断し、相談、検討している。(機能低下を防ぐ為の訪問マッサージ利用など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり、同じテーブルで食事を取り、世間話をするなど、介護する側、される側に別れるのではなく共に暮らすという意識を常に持って支えあいながら日々を送っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況(情報)を、面会時、または電話、おたよりなど随時伝えている。ただ伝えるだけではなく、時には協力を仰ぐなど共に支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解、協力のもと、知人との関係が維持できるよう面会に来てもらっている。面会時は知人が気軽に来れるよう居心地の良い雰囲気作りに努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりの性格や趣味など把握し、その日の様子を見ながら、時には職員が間に入り橋渡しをするなど、利用者同士が気持ちよく生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も関わりを必要とする本人、家族には、いつでも相談、支援できる体制をとっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を本人が職員に伝えやすい関係作りに努めている。また、日々の関わりから思いを把握し、本人にとって最適な支援ができるよう本人本位の立場になり検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの暮らし方は、本人とは日々の暮らしの中の会話から、家族とは面会時や必要に応じて電話などで把握に努めている。状況に応じて、以前利用していたサービス関係者からも情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態は個別記録に記入している。また、申し送りなど書面や口頭で常時現状を把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回または必要時、モニタリングを行い、課題の抽出、ケアについての検討など本人、家族や関係者(職員、看護師、ケアマネ、主治医)と行い介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容など個別に記録し、申し送り等で職員間の情報の共有、把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、要望に応じて、外出支援や受診、理美容など柔軟な支援を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や保育園児の訪問など地域の人も参加できるような行事を計画、参加してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続的な医療が受けられるように、また状況に応じて本人や家族が希望する医療機関にて、診察が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、一人ひとりの表情の変化に気を配り 早期発見に努めている。変化に気づいた時は、直ちに看護師に報告し、看護師が不在時でも職員と看護師は連携を取る事で 適切な医療に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入所サマリーを作成し利用者の情報提供を行い、看護師や職員で見舞・声かけを行うようにしている。又家族や主治医と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、安心して納得した最後が迎えられよう、随時意志確認をしながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、急変時には、迅速な対応が出来るよう、救急法や蘇生術の勉強会を行い、救急隊が到着する前に職員全員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を行い、災害時の避難経路の確認や消火器の使い方などの訓練を行っている。又災害時には、自治会の協力が得られるよう会議時に、自治会長や民生委員の方に声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を守るケアが提供できるように、勉強会を定期的に行っている。また、介護計画書にも記し、常に意識を持ち、サービスの質の向上に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、本人が思いややりたい事を家にいるように気軽に言葉に出せるような雰囲気作りに努めている。利用者によっては自己決定の困難な場合もあるが、できるだけ引き出せるようなコミュニケーションを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースで、その人らしく過ごせるよう本人の希望を優先する。不都合が生じた場合は、その都度本人と話し合い、よりよい方向性を指向していく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問理容がある。髪型は本人が理容師と相談して希望に沿って決められる。また、起床時や入浴、外出時は本人が職員と一緒に好みの服を選ぶよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントシートを作り、一人ひとりが何を好み、何が苦手なのか把握できるように努めている。それぞれの有する力に応じて、下ごしらえや片付けなど職員と一緒にこなしている。食事は職員も同じ机で、会話を交え和やかにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎時個別記録に記入、職員間で把握している。一人ひとりの状態に応じ、食事の形状や軟らかさなど配慮し、水分は食事以外にも飲む機会を持ち、確保に努めている。また、栄養バランスは定期的に栄養士による管理指導を実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態、有する力に応じて、準備、声かけ、見守り、介助など行い、清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別記録に排泄状況を記入、一人ひとりの排泄サイクルを把握し、状況に応じて声かけ、見守り、誘導など援助している。ADLに応じて日中は、パンツ着用、トイレを使用するなど排泄習慣が守られるよう支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保、運動による腹圧強化など予防に取り組み、排便チェック表にて状況を把握し、早期に便秘解消できるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員とおしゃべりし、楽しくゆったりと入浴できるような雰囲気作りを心がけている。予定のない日でも本人の希望や状況に応じて入浴できるように努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調、生活習慣を考慮し、本人のペースで安楽に休めるよう空調管理、見守りなど支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容などは、薬情ファイルを作成して把握し、服薬は一人ひとりの状況に応じて介助、見守りなど援助している。症状の変化については、随時、看護師に報告し、医療と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートにて一人ひとりの生活歴や好み、趣味を把握し、歌や塗り絵、ゲーム、学習など個々に合ったレクを楽しんだり、日課(役割)となるものを持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人希望時や天気の良い日は屋外に出て散歩したり、買い物に同行、喫茶店に行くなど気分転換の機会をもっている。また、年間行事計画を作り、家族やボランティアの協力のもと、季節の行事や誕生会に合わせ、外出支援を行なっている		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、一人ひとりの能力に応じて、自己管理の援助を行なっている。必要な物品などは職員が同行し、買い物に出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望にそって適切な時間に取り継ぐなど、自身が対応できるよう支援している。手紙が施設に届いた時は、必ず本人に渡している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなど共用スペースは、季節に応じた手作り中心の飾り付けがしてある。また、行事の写真を貼りだし、いつでも楽しみながら振り返ることができる。光、温度など空調管理は一人ひとりが快適に過ごせるよう配慮し、席の位置など工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に一人用、二人用のソファを置き、朝陽を拝んだり、利用者同士でおしゃべりできる空間がある。リビングにも、好きな時に座ってテレビを観たり、他者や職員とおしゃべりできるように椅子、ソファを用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、本人が居心地よく過ごせるように配慮し、本人や家族と相談して馴染みの物、好きな物を置いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況に合わせ、転倒事故などに繋がる障害物の撤去など安全な環境を整え、できるだけ安心して自立した生活が送れるよう支援している		